

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

Q29 (VRE、接触感染予防策、環境感染、多剤耐性菌感染)

褥瘡よりVRE検出(院内検査室からの報告で詳細な検査type別はしておりません)しました。当患者はアルコール依存症にて入院しており、合併症として肝癌(HCV(+))非代償性肝硬変症があります。また反復性誤嚥性肺炎もあり、抗菌薬および絶食を繰り返し、長期臥床でかなり栄養状態が悪いです。経管栄養は精神科症状のため行っておりません。末梢輸液のみです。

今後の対応として、接触感染予防策と個室管理を行います。

1. 下痢がないため便培養も行っておりません。やはり便培養も行った方がよいのでしょうか？
2. 同室者・職員の保菌検査(便培養など)した方がよいのでしょうか？
3. トイレを含め環境の細菌検査は必要でしょうか？当患者はオムツ使用です。
4. 感染症として5類の届け出は必要なのでしょうか？
5. VREに対しての消毒はどのようにしたらよいでしょう？

- ・リネン類：シーツ、衣類等
- ・環境整備類
- ・排泄物の処理等(オムツ、尿器、トイレ、風呂等)

MRSAに準じた対応でよいのでしょうか？

現在のところ他の患者にはVRE感染を疑うような症状はありません。

当院での初めてのケースなので、対応に苦慮しております。当患者はVCM投与のepisodeはありませんが、最近肺炎のため、抗生剤、β-ラクタマーゼ阻害剤を反復使用しております。

A29

バンコマイシン耐性腸球菌(VRE)が褥瘡より検出された症例であり、その感染対策についての質問として回答いたします。

検査学的には、まず本当にVREであるかの判定が重要です。

感染対策が必要とされるVREとは、Van A遺伝子またはVan B遺伝子を保有している腸球菌となります。

もし検出された菌がVREとすると、感受性パターンからは(ペニシリン耐性菌)、バンコマイシン耐性*Enterococcus faecium*と推測します。

以下述べますようにVREの対策はかなりの大がかりなものとなります。従って保健所や検査設備の整った施設にご相談し、きちんとした同定を行うことがまずは重要と考えます。

1. 便培養

腸球菌は人の大腸の常在菌であり病原性も弱いため、ほとんどの例で便中に保菌状態でとどまり、本例のように便以外の検体から検出されることや感染症を起こすことは比較的稀です。したがって、本症例では当然便中に保菌されているものと考えられますが、確認の意味で一度検査を実施しておく意義はあるかもしれません。

2. 便培養検査(スクリーニング)について

褥瘡から検出されたということですが、比較的長期にわたる便保菌状態からの感染と考えられるため、病棟内での蔓延が危惧されます。基本的には病棟全体の患者の便保菌調査が推奨されます。便からVREが検出されれば、その患者も

回答については、質問時の基準に沿って回答しておりますので、現時点とは異なっている場合もございます。

隔離が必要となります。なお多数の検体のスクリーニングには、各社より発売されているVRE選択培地が便利と思います。

一方、職員の保菌検査は、院内感染とは通常関連しないため、基本的には不要です。

3. 環境調査

もし病棟内に蔓延していた場合には、様々な環境からVREが検出されます。しかしながら、環境調査は方法論も確立されておらず、再現性が悪いとため、特定の器材などの疫学的に疑われる場合を除き実施の意義は乏しいといえます。それよりも、汚染の可能性の高い、患者の周囲環境やトイレ、汚物処理室などの丁寧な清掃や清拭消毒などが優先されま
す（5.もご参照下さい）。

4. 届け出

感染症法上はVREによる感染症例が対象となります。確定検査の必要性もあるため、一度ご相談されてもよいかと思
います。また、病棟内アウトブレイクなどの事例があれば、保健所に報告する必要があります。

5. 消毒

MRSAやVREでも同じですが、接触予防策としての対応が基本です。環境は清掃を行う、消毒は人が頻繁に触れる環
境を中心に行います。

衣類やシーツ類：特別な消毒は不要であり、良く洗い、乾かすことが最も重要です。病院で用いられるシーツ類は通
常高温洗濯されることが多いと思いますが、それで十分です。

環境物品：患者の診療に日常的に用いる物品は専用化する（聴診器、血圧計）。手が触れる環境はアルコールや低水準
消毒薬で定期的に清拭消毒する。床などは通常の清掃を行う。が基本となります。但し、VREによる高濃度
な汚染が疑われる場合（便失禁した場合など）は、汚染部位の清拭消毒をご考慮下さい。

排泄物：オムツは周囲の環境を汚染しないように慎重に取り扱う。取り扱いがガウン・手袋着用し、作業後はすべて感
染性廃棄物として廃棄する。尿器や便器も専用として、定期的に洗浄消毒する。可能ならトイレ付き個室内が
望ましいと思いますが、共用の便器を用いるなら、使用後にしっかりと清拭消毒する必要があります。お風呂
は順番を最後にするなどして、使用後はよく洗い流し、乾燥させて下さい。